

人文学部教員研究業績一覧（2020.1.1-12.31）

Academic Achievements in 2020: Faculty of Arts

凡例：

氏名

①著書

②論文・研究ノート

③翻訳

④芸術創作

⑤書評・随筆

⑥学会・研究会等での報告

⑦その他

金井 直

- ①『美学の事典』（「古典主義 《ミロのヴィーナス》 はなぜ「美しい」のか」「彫刻は本当に退屈なのか」「還元主義 美術はどこまで純粹になれるのか」 pp. 180-181, 196-199, 276-277を分担執筆）丸善出版 [共著]
- ② 1) 「登攀する身体と兆す光～千田泰広の作品をめぐって」（展覧会図録『千田泰広－イメージからの解放－』吉祥寺美術館、pp. 90-92）[単著] 2) 「非色から分与へ ピエロ・マンゾーニの10年」（『ピエロ・マンゾーニ日本事始』シュウゴアーツ、pp. 21-37）[単著]
- ⑤ 1) 書評「時代の身体と共鳴しうる一六世紀美術史『憧憬のアルストピア』（『図書新聞』3442号、p. 6）[単著] 2) 「2019年のあいち」（『REAR』no. 45、pp. 58-62）[単著]
- ⑦ 1) 千田泰広展クロージングトーク（吉祥寺美術館、2月22日）[共同] 2) シンポジウム：Italia Zokugo - Linguaggi espositivi tra Italia e Giappone（イタリア文化会館東京、10月31日）[共同]

北村明子

- ② 1) 「姿勢：身体のゼロ地点（対話し、表現する身体の場所）」（『美術解剖学雑誌』22巻第1号、pp. 19-27）[単著] 2) 「身体が語り得ること／舞踊創作の現場から」（『中部哲学会年報』5号、pp. 21-47）[単著]
- ④ 〈舞台舞踊作品〉「Echoes of Calling」、2月15-16日、SHIBAURA HOUSE、港区文化芸術活動サポート事業 [演出・振付・構成] 〈振付〉VR映画『Last Dance』（監督・脚本・デザイン：半崎信朗、エグゼクティブプロデューサー：野間省伸、プロデューサー／共同執筆：石丸健二、制作：講談社 VR ラボ株式会社）[振付]
- ⑤ 「振付家北村明子」（『仕事本わたしたちの緊急事態日記』、左右社、pp. 338-343）[単著]
- ⑦ 〈ワークショップ〉「世田谷パブリックシアター ダンス食堂 メニュー18 北村明子ワークショップ」、1月9日、世田谷パブリックシアター 稽古場（三軒茶屋駅前「キャロ

トタワー」内)、公益財団法人せたがや文化財団主催、世田谷パブリックシアター企画・制作、東レ株式会社協賛、世田谷区後援〈オンライン・トークイベント〉《北村明子×平山素子×近藤良平》、8月7日、Dancers Web Magazine ダンサートーク(チャコット)〈インタビュー〉1)「北村明子インタビュー:身体の可能性と向き合うことが、ダンスのミッション」、2月7日、Chacott Dance Cube Web Magazine 2) Top Interview「常に身体の新しき魅力の発見に喜びを感じたい」、11月1日、Dancers Web Magazine 2020 Vol. 64

篠原成彦

⑥「相互作用的二元論の巻き返し?」、中部哲学会大会 シンポジウム「物心二元論の行方——心身問題の再検討」における提題、10月17日、Web上で開催

濱崎友絵

⑤「『歌を知らない』男と『歌を知る』男」(地中海学会月報435号、6頁)[単著]

⑦1) 事典項目「トルコ音楽」『美学の事典』(吉岡洋他編、丸善出版) 2) 科学研究費基盤研究(C)「ドイツにおけるトルコ系移民の音楽伝承メカニズム」(課題番号:19K00130) 研究代表者 3) 早稲田大学非常勤講師(2020年11月～) 4) セイジ・オザワ 松本フェスティバル実行委員(継続) 5) 一般財団法人松本市芸術文化振興財団 評議委員(継続) 6) 『音楽大事典』(平凡社)改訂版編集委員(継続) 7) 日本音楽学会第71回全国大会実行委員(2019年11月～2020年11月) 8) 東洋音楽学会機関誌『東洋音楽研究』編集委員(2020年12月～)

早坂俊廣

①『中国思想基本用語集』(湯浅邦弘編集、ミネルヴァ書房、3月、384P)[共著]

③1)「鄒守益「会語」資料(惜陰・青原・龍華の会関連) 訳注—陽明門下の会語記録を読む 其の四—」(『白山中国学』通巻26号、pp. 1-21) 2)「鄒守益「会語」資料(復古書院関連) 訳注—陽明門下の会語記録を読む 其の五—」(『白山中国学』通巻26号、pp. 23-72)

⑦「孔子と現代—孔子はいつも工事中—」(安曇野市市民大学講座・信州大学編第2回、11月19日、豊科交流学習センター多目的交流ホール)

三谷尚澄

②1) Realism and Givenness: Wilfrid Sellars and the Heritage of American Philosophy (*Shinshu Studies in Humanities*, no. 7 (Vol. 2), pp. 59-70) [単著] 2) Beyond Monism and Pluralism: On Dōgen's Pan-Self-Ist Turn of Metaphysics (*Tetsugaku: International Journal of the Philosophical Association of Japan*, Volume 4, Special Theme: Analytic Asian Philosophy, pp. 119-134) [単著]

⑤「世界市民という思想」(伊藤邦武/山内志朗/中島隆博/納富信留(編)『世界哲学史6 近代I 啓蒙と人間感情論』筑摩書房、124-125頁)

⑦1)「いま、日本の地方で哲学すること 『文系の学問』は本当に世の中の役に立つのか」

(信州大学人文学部リベラルアーツ研修 / 教育、2月10日) 2) 「「死と生」をめぐるいくつかの考察」(「全国医学生ゼミナール ポスト医ゼミ in 信州」、2月23日)

護山真也

- ① 1) *Buddhist Philosophy of Consciousness: Tradition and Dialogue*. Ed. by Mark Siderits, Ching Keng, and John Spackman. Leiden-Boston: Brill, 2020. [Chap. 8: “Dharmapā la on the Cognition of Other Minds (*paracittajñā na*)”, pp. 225-241 を分担執筆]. [共著] 2) *Transmission and Transformation of Buddhist Logic and Epistemology in East Asia*. Ed. Shinya Moriyama, Wien: Arbeitskreis für Tibetische und Buddhistische Studien Universität Wien, 2020. [Introduction & “Kuiji’s Analysis of the Four Kinds of Contradictory Reasons” を分担執筆]. [編著]
- ② 1) Shinya Moriyama & Takeshi Sakon, “Dōgen on Time and the Self”, *Tetsugaku*, Vol. 4, pp. 135-150 [共著] 2) 「仏教認識論の射程——未来原因説と逆向き因果」『未来哲学』創刊号、pp. 138-152. [単著]
- ③ 事典項目執筆、「序章：仏教認識論・論理学」(pp. 26-28)「プラマーナ・ヴァールッティカ」(pp. 198-200)「斎藤明他(編)『仏典解題事典(第三版)』春秋社 [共著]
- ④ 「自己認識 (*svasaṃvedana*) と主観性」(招待講演、大正大学西洋哲学研究室研究会 [課題：科学における意識の問題への現象学的・唯識思想的アプローチとその現代的課題について]、8月28日、オンラインで開催) [単独]

菊池 聡

- ① 1) 『改訂版 錯覚の科学』放送大学教育振興会 [共著] 2) 『サブカルチャーの心理学 カウンターカルチャーから「オタク」「オタ」まで』福村出版 [分担執筆] 3) 『教えて！信州からの防災学』信濃毎日新聞社 [分担執筆]
- ② 1) 「Twitter 利用と疑似科学信奉との関連」菊池聡・佐藤広英『信州大学人文科学論集』7(2)pp. 71-86. [共著] 2) 「非常時における避難の心理学」『建築防災』514 pp. 24-32. [単著]
- ③ 第45回日本写真家協会2020JPS展・優秀賞
- ④ 1) 「坂野先生を偲んで」、『応用心理学研究』45、284-285. [単著] 2) 「坂野先生を偲ぶ」、菊池聡・齋藤智、『心理学研究』91、149-152. [共著]
- ⑤ 1) 「なぜ私たちはニセの健康情報を信じてしまうのか—疑似科学を解き明かす心理学—」はこだて国際科学祭2020サイエンスダイアログ、8月22日 [単独] 2) 「防災・減災の学習活動による批判的思考態度の影響 プレンディッド学習による大規模指導の検討」中山実・菊池聡・山本広雄、日本心理学会第84回大会、東洋大学 (Web 開催)、9月8日～11月2日 [共同] 3) 「SNS 投稿トラブルと関連する心理・行動特性の研究」菊池由希子・大月美里・菊池聡、日本心理学会第84回大会、東洋大学 (Web 開催)、9月8日～11月2日 [共同] 4) 「疑似科学信奉と向社会的行動の関連性」日本心理学会第84回大会、東洋大学 (Web 開催)、9月8日～11月2日 [単独]
- ⑥ 1) 「災害リスクに備えるための心理と行動の基礎知識」(令和元年度 信州大学衛生管理

者・安全管理者研修講師、信州大学松本キャンパス旭会館、1月23日) 2)「人はなぜ怪しい情報を信じてしまうのか」(長野県生活協同組合連合会・下期役員研修会講師、長野市メトロポリタン長野、1月24日) 3)「防災減災行動とメディア情報の心理学」(民放労連北陸信越地方連合会第96回臨時大会研修講師、JA長野県ビル、2月8日) 4)「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座・長野県市議会事務局協議会ブロック研修会講師、小諸市役所、2月10日) 5)「だまされる心の心理学」(信州大学出前講座・松本商工会議所建設部会講演会講師、ホテルブエナビスタ、2月26日) 6)「防災減災のための心理学」(NPO法人ライフデザインセンター勉強会講師、松本市役所市民サポートセンター、7月7日) 7)「防災減災のための心理学」(令和2年度長野県消防設備協会実務研修会講師、塩尻レザンホール、9月28日) 8)「研究者に聴く「心理学の今と昔」20」(TO-WAVE日本心理学会第84回大会特別企画、東洋大学(Web開催)、10月3日) 9)「あなたもきっとだまされる!思い込みを科学する心理学」(長野県防犯セミナー・防犯ボランティア地域交流会講師、佐久平交流センター、10月6日) 10)「錯覚の不思議な世界」(信州大学出前講座・木曾青峰高等学校理数科高大連携特別講座講師、木曾青峰高校、10月29日) 11)「防災減災のための心の科学」(信州大学出前講座・第45回地方自治研究会須坂市集会講師、須坂商工会館、10月31日) 12)「災害救急現場に活かす心理学」(長野県消防長会・救急活動研究会令和2年度救急救命士研修会講師、11月2日) 13)「防災減災のための心理学 リスク社会をいかに生きるか」(信州大学出前講座・阿智高等学校総合的な探求の時間講師、阿智高校、11月11日) 14)「ポジティブに生きるための心理学」(信州大学出前講座・赤穂高等学校人権平和学習講師、赤穂高校、11月11日) 15)「ポジティブに生きるための心理学 落ち込みをふせぐための「考え方」を身につけよう」(伊那市健康推進課「こころの健康づくり講演会」講師、伊那市役所、11月14日) 16)松本市ユニバーサルデザイン推進会議座長、松本市役所、3月3日 17)「SBC信越放送 あしたを守る信州の防災減災」番組制作監修

佐藤広英

②1)「Comparison of privacy consciousness between younger and older adults」(Japanese Psychological Research, 早期公開) [共著] 2)「Twitter利用と疑似科学信奉との関連」、『信州大学人文科学論集』7(2)、71-86 [共著] 3)「歩きスマホの心理プロセス：危険性の高い状況、低い状況ごとの検討」『信州大学人文科学論集』7(2)、87-98 [単著]

⑥1)「国内外企業のプライバシーポリシーの特徴比較：固有表現の曖昧性と情報量による分類」(暗号とセキュリティシンポジウム2020(SCIS2020)、ザ・クラウンパレス新阪急高知、1月31日) [共同] 2)「プライバシーポリシーの固有表現の曖昧性と情報量による分類：透明性に関する一考察」(人工知能学会全国大会第34回、オンライン開催、6月11日) [共同] 3)「科学トピックに関する掲示板コミュニケーションが批判的思考態度に及ぼす影響」(日本科学教育学会第44回年会、オンライン開催、8月) [共同] 4)「プライバシーに関する社会的トピックの整理」(日本教育心理学会第62回総会、オンライン開催、9月) [共同] 5)「情報プライバシーとプライバシーポリシーの理解度、評価との関連」(日本パーソナリティ心理学会第29回大会、オンライン開催、9月11日) [共同] 6)「プライバシー意識の日米独比較：GDPRに対する理解の違いに着目して」(日本パーソナリティ心理

学会第29回大会、オンライン開催、9月11日) [共同] 7) 「スマートフォン上で Implicit Association Test を実施するウェブアプリケーションの作成」(日本心理学会第84回大会、オンライン開催、9月) [共同] 8) 「プライバシーポリシーを読むユーザへの支援に関する一考察：支援ツール構築とその効果検証」(コンピュータセキュリティシンポジウム2020 (CSS2020)、オンライン開催、10月27日) [共同] 9) 「他者のプライバシー意識と Twitter 上での他者情報公開との関連：Twitter 上での他者のプライバシー懸念を媒介するモデルの検討」(日本社会心理学会第61回大会、オンライン開催、11月) [共同]

⑦ 1) 国立研究開発法人情報通信研究機構ネットワークセキュリティ研究所セキュリティ基盤研究室・招へい専門員 (2019年4月～現在) 2) 日本心理学会・教育研究委員会委員 (2020年11月～2024年10月) 3) 日本パーソナリティ心理学会・学会誌編集委員会常任委員 (2018年9月～現在) 4) WebLab 研究会・メディア・情報・コミュニケーション研究編集委員 (2016年4月～現在) 5) 「スマートフォンで潜在的なメンタルヘルスを評価するアプリケーションの開発」(科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者、～2021年3月) 6) 2020年度日本科学教育学会年間発表賞・受賞(「疑似科学的言説に対する科学リテラシー向上を目的としたオンラインプラットフォームの開発」、8月26日) 7) 「新型コロナウイルスの世界的感染拡大と消費者の脆弱性：第1部コロナ禍における消費者心理・行動と消費者トラブル～情報発信のあり方、行動変容を促す取組～」(シンポジスト)(消費者庁新未来創造戦略本部開設記念シンポジウム、徳島グランヴィリオホテル、10月22日) 8) 「情報メディアの心理学」(令和元年度教員免許状更新講習、信州大学、11月14日)

茅野恒秀

① 1) 茅野恒秀・湯浅陽一編『環境問題の社会学：環境制御システムの理論と応用』(全328頁、第1章「環境制御システムの理論射程」pp. 3-99および「あとがき」を執筆) 東信堂 [共編著] 2) 信州大学地域防災減災センター編『教えて！信州からの防災学』(「家庭の太陽光発電 使える自立運転モード」pp111-113を執筆) 信濃毎日新聞社 [共著]

② 「集落はなぜ共有地をメガソーラー事業に供する意思決定を行ったのか：霧ヶ峰麓の環境史・開発史からの考察」(『信州大学人文科学論集』7(2)：99-123) [単著]

⑦ 1) 講演「地域資源を活かした川路のまちづくりに向けて」(2月2日、川路の明日を考える研究集会、飯田市川路公民館) 2) コーディネーター「人(ひと)巻き込み力で地域に木育を広げる」(2月8日、木育サミット in 東京、木材会館) 3) 講演「SDGs 未来都市・長野県の暮らしとエネルギー」(2月14日、包括連携協定に基づく議員研修会、長野県議会) 4) コメンテーター「知るしん ウィズコロナ時代の切り札!? 地域密着エネルギーが熱い」(7月31日、NHK 長野放送局) 5) 講演「地域材・里山の利活用の座談会」(8月9日、美麻薪クラブ) 6) コーディネーター「減容化施設と木質バイオマス発電：肥大化する除染ビジネス、拡大するリスク」(8月25日、原子力市民委員会特別レポート・ウェビナー) 7) コメンテーター「自然保護における地理学の役割」(10月31日、日本地理学会2020年秋期学術大会シンポジウム S1、オンライン) 8) 講演「長野県の脱炭素未来ビジョン」(12月27日、Go To 脱炭素セミナー 全国都道府県巡り～長野県～、NPO 法人気候ネットワーク、オンライン) 9) 研究助成「再生可能エネルギー事業が地域経済・社会に

与える効果の社会学的測定：長野県中信地域の網羅的調査を通じて」（2020年度、公益財団法人アサヒグループ学術振興財団）10）連携協定締結「松本市および長野県におけるエネルギーの地産地消を活用したまちづくり連携協定書」（7月27日、ENEOSホールディングス株式会社、さとやまエネルギー株式会社との三者協定）11）編集委員『環境社会学事典』（丸善）12）メンター「海洋プラ問題を解決するのは君だ！」（IHRP 実行委員会、読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局）

前田 豊

- ② “Vulnerability to Negative Life Events: Unemployment and Loss of a Spouse in Japan.” (SocArXiv. <https://doi.org/10.31235/osf.io/g2wcf>) [Ishida, Atsushi, and Yutaka Maeda]
- ⑥ 1) 「災害廃棄物の仮置場設置に関わる要因の探索的検討」（環境社会学会第61回大会、6月13日-14日、オンライン会議システム（Zoom））[共同、金太宇・前田豊他] 2) 「質的調査におけるQCAの利用について」（質的比較分析（QCA）研究会、9月17日、オンライン会議システム（Webex））[単独] 3) 「RDSデータに対応するロジスティクス回帰モデルの推定について」（第69回数理学会大会、9月21日-22日、オンライン会議システム（Zoom））[共同、前田豊・朝岡誠]

水原俊博

- ② 「文化的消費の経済社会システム」『経済社会学年報』42、pp. 66-70. [単著]
- ⑥ [学会] 1) 「消費文化の情報化と社会の持続可能性——新しい生活様式を中心に」、共通論題、成長・連帯・持続可能生、経済社会学会第56回全国大会、於：Zoom（文京学院大学、10.10）. [単独] [その他] 1) 「2019年日本籍住民・事業所調査の概要——2010年・2014年調査との比較」、多文化共生シンポジウム、信州大学人文学部・松本市、於：松本市中央公民館、2. 9. [単独] 2) 「令和元年度松本市多文化共生実態調査結果報告について」、令和2年度第1回松本市多文化共生推進協議会、於：パレア松本、6. 3. [単独]
- ⑦ [共同研究] 「生活者の防災・減災・被災に関する意識・実態調査」、信州大学地域防災減災センター、[共同] [学会運営] 1) 経済社会学会常務理事 2) 経済社会学会第56回全国大会プログラム委員 3) 経済社会学会第57回全国大会プログラム委員. [その他] 1) 信濃美術館地域連携専門委員 2) 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員 3) 公益財団法人八十二文化財団理事

今井 章

- ② 「換気カプセル式デジタル発汗計を用いた定位反応の検討」信州大学人文科学論集、7(2)、125-133. <http://hdl.handle.net/10091/0002203> [共著]
- ⑥ 「検出課題における感覚処理感受性と脳波との関係」日本基礎心理学会第39回大会（11. 7-17、北海道大学、Web開催）[共同]
- ⑦ 1) 独立行政法人自動車事故対策機構長野支部令和元年度運行管理者等基礎講習講師「運転者の心理『自動車運転者の適性管理について—安全運転のために—』」（1月16日、松本市勤労者福祉センター）[単独] 2) 2020年度放送大学教養学部第2学期面接授業講師「心理

学実験3」(11月14-15日、長野県諏訪市文化センター) [単独]

岡本卓也

② 「道」と「歩くこと」の社会心理学(2)：コミュニティと道」(『コミュニティ心理学研究』、23(2)、87-99.) [単著]

⑥ 1) 観光旅行者のレポート行動に関する研究(3) (日本心理学会第84回大会、東洋大学、10月) [単独] 2) Walking and community: Effects of walking on the psychological wellbeing and the community. (Seminar on Understanding Risk Group Cardiff University Mar. 2020 (コロナ感染対策のためドキュメントのみでの開催)) [単独]

⑦ [外部資金の獲得] 1) 「道」の魅力の解明：歩く旅の心理的機能と地域資源としての「道」(科学研究費補助金(基盤研究(B))：研究代表者) 2) 「観光行動における歩くことの心理過程と自己過程に関する研究」(科学研究費補助金(挑戦的研究(萌芽))：研究代表者)、3) 「旅行キャリア発達のための熟達化過程の解明とキャリア対応型観光支援システムの開発」(科学研究費補助金(基盤研究(B))：分担研究者) 4) 「コミュニティ健康文化研究プロジェクト」(チームグクル合同会社) [学会活動] 1) 日本心理学会教育研究委員会委員 2) 日本コミュニティ心理学会理事 3) 日本コミュニティ心理学会編集委員会委員 [社会貢献] 1) 松本市市民活動推進委員会委員長 2) 長野県新型コロナウイルス感染症対策専門家懇談会講演会「コロナ禍における心理学・社会心理学の観点からみた対策のあり方」講師

高瀬弘樹

⑦公益社団法人才能教育研究会との共同研究「プロのヴァイオリニストの演奏は、アマチュアと何が違うのか? —プレリミナリー・スタディー」(2018年9月1日~2021年8月31日)

松本 昇

①横田正夫(監修)坂本真士(編)『心理学からみとうつ病(シリーズ〈公認心理師の向き合う精神障害〉2)』(朝倉書店、160P、pp. 25-44「うつ病の認知心理学的理解」) [共著]

② 1) Hasegawa, A., Matsumoto, N., Yamashita, Y., Tanaka, K., Kawaguchi, J., & Yamamoto, T. (2020) Do shorter inter-stimulus intervals in the Go/No-Go Task enable better assessment of response inhibition? *Scandinavian Journal of Psychology*. [共著] 2) Nishimura, H., Hasegawa, A., Nishiguchi, Y., Tabuchi, R., Matsumoto, N., Masuyama, A., Oi, H., Fukui, H., Oikawa, M., Tanno, Y., & Mochizuki, S. (2020). Relationship between trait rumination and imbalanced working memory: Analysis at the latent variable and individual tasks levels. *Current Psychology*. [共著] 3) Kiire, S., Matsumoto, N., & Yoshida, E. (2020). Discrimination of Dark Triad traits using the UPPS-P model of impulsivity. *Personality and Individual Differences*, 167, 110256. 4) Matsumoto, N., & Kawaguchi, J. (2020). Negative item memory and associative memory: Influences of working memory capacity, anxiety sensitivity, and looming cognition. *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*, 68, 101569. [共著] 5) Matsumoto, N., Takahashi, Y., & Kawaguchi, J. (2020).

Increased direct retrieval of overgeneral categoric memory in individuals with dysphoria and a history of major depression. *Cognitive Therapy and Research*, 44, 483-498. [共著]

6) 松本 昇 (2020). 「Cry of Pain: 自殺の認知臨床心理学」『精神医学』62(12)、1651-1661.

[単著] 7) 菅原大地・増山晃大・福井晴那・能渡綾菜・水野雅之・松本 昇 (2020). 「Process-Based Therapy—認知行動療法の新たな展開—」、『精神医学』、62(11)、1539-1547.

[共著] 8) 松本 昇 (2020). 「認知臨床心理学をいかに精神病理のネットワーク解析と融合させるか—檜原論文へのコメントと拡張—」、『心理学評論』、63(2)、121-126. [単著]

⑥ 1) Matsumoto, N., Nishimura, H., Nishiguchi, Y., Tabuchi, R., Hasegawa, A., Masuyama, A., Oi, H., Fukui, H., Oikawa, M., Tanno, Y., & Mochizuki, S. (2020). Overgeneral autobiographical memory is selectively associated with updating function of executive control. *Psychonomic Society 61th Annual Virtual Meeting*.

2) 喜入 暁・松本 昇・吉田 恵理 (2020). 短縮版多次元衝動的行動尺度日本語版 (SUPPS-P-J) の作成と妥当性、日本心理学会第84回大会

3) Matsumoto, N. (2020). Current problems and future directions in OGM research. *Network meeting on experimental psychopathology*

⑦ 日本心理学会第84回大会優秀発表賞受賞

大串潤児

① 樋口映美編『歴史のなかの人びと—出合い・喚起・共感』彩流社、4月、うち「[点]の人びとをつなぐ—岩手県北の生活記録運動」182~191頁を分担執筆 [共著]

② 1) 「済南事件と長野県—新出史料の紹介と若干の論点の提示」『長野県立歴史館 研究紀要』第26号、3月、25~39頁 [単著] 2) 「赤沼地域の近現代史料の救出・保全」『長野市立博物館紀要』第21号、3月、23~27頁 [単著]

3) 「20世紀モダニズムを考える視点—大衆化と地域社会」『歴史地理教育』第913号、8月、4~9頁 [単著]

⑤ 1) 「書評 佐々木啓『「産業戦士」の時代—戦時期日本の労働力動員と支配秩序』大月書店2019』『民衆史研究』第99号、5月、97~104頁 [単著] 2) 「書評 鬼嶋淳『戦後日本の地域形成と社会運動—生活・医療・政治』日本経済評論社、2019年』『同時代史研究』第13号、10月、114~118頁 [単著]

⑦ 1) 「解説」吉田裕『兵士たちの戦後史—戦後日本社会を支えた人びと』岩波現代文庫、2月、357~367頁 [単著] 2) 「国策紙芝居—北海道函館調査・札幌での研究会記録」神奈川大学非文字資料研究センター『News-Letter』No.43、3月、12~17頁 [単著]

3) 「COVID-19感染症流行(いわゆる「コロナ禍」)と戦後75年」『長野県歴教協通信』9月25日号、1~4頁 [単著] [社会活動] 1) 国立歴史民俗博物館展示リニューアル委員会・委員 2) 飯田市歴史研究所顧問研究員 3) 神奈川大学常民文化研究所非文字資料研究センター客員研究員 4) 長野県立大学非常勤講師 (2018. 4~) 5) 都留文科大学非常勤講師 (2020. 9. 1~)

豊岡康史

② 1) 「清朝中期の構造変動と「嘉慶維新」(1796-1820)」(JFE アジア21世紀財団『アジア歴史研究報告書』2019年度、133-149) [共著] 2) 「嘉慶四 (1799) 年六月上諭の訳注及び

考察：清朝嘉慶維新研究序説」（『環日本海研究年報』25、48-83）〔共著〕 3）「嘉慶四（1799）年七月上諭の訳注および考察(2)清朝嘉慶維新研究序説」（『資料学研究』17、29-52）〔共著〕

⑦科学研究費補助金「清朝中期漢地政策の変容とその社会経済的背景の再検討（1736-1854）」（若手研究、18K12522、2018-2021年）を研究代表者として実施。

山本英二

②「東日本台風災害と信州資料ネット」（『長野市立博物館紀要』第20号、pp. 19-20、3月）〔単著〕

⑥1）「2019年台風19号豪雨災害と信州資料ネット」（第25回史料保存利用問題シンポジウム報告、オンライン、12月19日）〔単独〕

⑦1）2019年度後期講座第5回「教科書で学ぶ日本史の謎と常識」（名古屋市・栄中日文化センター、7月17日）〔単独〕 2）2020年度後期講座第1～3回「災害から学ぶ日本史」（名古屋市・栄中日文化センター、10月16日、11月20日、12月18日） 3）徳川林政史研究所特任研究員 4）関東近世史研究会評議員 5）国史学会評議員、6）信州資料ネット代表

磯部美穂

①『快速マスタードイツ語』（語研、6月、304P）〔単著〕

⑥“A Learner-Corpus based Study on Correction Methodology”、56th Linguistics Colloquium, Virtual Meeting, 26. Nov., 2020 〔共同〕

伊藤加奈子

②「“这家” “那家” そして “他家”に関する日中対照」（『信州大学人文科学論集』第7号（第2冊）、135-158）〔単著〕

氏岡真士

②1）「《忠義璇図》的足本与残本」（『信州大学人文科学論集』第7号（第2冊）、159-171）〔単著〕 2）「『俗語解』の岩瀬本と立正本」（『信州大学総合人間科学研究』第14号、137-146）〔共著〕 3）「另一個北京所藏的容与堂本《水滸》」（『信州大学人文科学論集』第8号（第1冊）、33-40）〔単著〕 4）「『水滸後伝』と『宣和譜』」（『饕餮』第28号、49-65）〔単著〕

葛西敬之

②「ローベルト・ヴァルザーにおける詩という形式について」（『ドイツ語文化圏研究』16号、1-24頁）〔単著〕

⑤「軽やかで幸福な言葉が誕生する過程」（『図書新聞』3450号、次の書籍の書評として：新本史斉著『微笑む言葉、舞い落ちる散文—ローベルト・ヴァルザー論』鳥影社）〔単著〕

鎌田隆行

- ② 「バルザックの未完作品とエディションについて」、『信州大学人文科学論集』第8号(第1冊)、p. 41-54. [単著]
- ⑤ «Takao Kashiwagi, *Vingt microlectures des romans de Balzac*», *Romantisme*, n° 190, 2020, p. 134-136. [単著]
- ⑥ 「バルザックにおける共作の実践」、関西バルザック研究会、Zoom ミーティング、12月20日. [単独]
- ⑦ 1) 科学研究費補助金(基盤研究C)「バルザックにおける共作の生成論的研究」(研究課題番号18K00474) 研究代表者 2) Groupe International de Recherches Balzaciennes(国際バルザック研究会) 執行部メンバー(2008年3月～) 3) パリ第8大学出版会叢書«Manuscrits modernes» アドヴァイザリーボード委員(2014年5月～) 4) パリ・デイドロ大学ジャック・セバシェール研究センター客員研究員(2015年12月～) 5) クラシック・ガルニエ社«Revue Balzac» 編集委員(2016年11月～) 6) シャンソン研究会参与(2011年4月～) 7) 日本フランス語フランス文学会中部支部幹事(2020年4月～).

渋谷 豊

- ② 「吉江喬松『アルプス連峯の輝き』試論」『信州大学人文科学論集』7(2)、p. 173-194 [単著]
- ⑤ 「原書で読んでさらに楽しい『海底二万里』」『ふらんす』6月号、p. 14-17 [単著]
- ⑦ 1) 「選評」『文藝譜(長野県文芸コンクール入賞作品集)』第9輯、p. 36-38 [単著]
2) 科学研究費基盤研究(C)「近代文学における地球の表象——吉江喬松を中心に」(課題番号20K00518) 研究代表者 3) 科学研究費基盤研究(C)「世界戦争とナショナル・アイデンティティー—アジア太平洋戦争期の他者体験と文学言説」(課題番号20K00323) 研究分担者

野津 寛

- ② “Some Questions on the *Acharnians* of Aristophanes: Names of Amphitheos and Dicaeopolis,” *Dancing Wisteria: Essays in Honour of Professor Masaaki Kubo on his Ninetieth Birthday* (『藤花のたわむれ、久保正彰先生の卒寿を祝して、第I巻、久保正彰先生卒寿記念論集』)、10月10日、東京大学文学部西洋古典学研究室、p. 301-309 [単著].
- ⑥ 1) “Apuleius, *Metamorphoses*: 物語の構造と解釈”、7月25日、日仏ギリシア・ローマ学会 WEB セミナー2020(第1回)、Web セミナー [南英明氏との共同発表]. 2) “Mises en scène d'*Antigone* de Sophocle par Satoshi Miyagi”, Université de Paris, Le Centre d'Études et de Recherches Interdisciplinaires de l'UFR Lettres, Arts, Cinéma, 12月2日 [単独]. 3) “Un aspect de la réception des lettres classiques au Japon: le club de tragédie grecque de l'Université de Tokyo”, Université de Paris, Le Centre d'Études et de Recherches Interdisciplinaires de l'UFR Lettres, Arts, Cinéma, 12月3日 [単独].
- ⑦ 1) 日仏ギリシア・ローマ学会 WEB セミナー2020(第1回)を日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として開催、7月25日. 2) 日仏ギリシア・ローマ学会 WEB セミナー2020(第2回)を日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として開催、9月12日. 3) 日仏ギリシ

ア・ローマ学会 WEB セミナー2020(第3回) を日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として開催、9月26日。 4) 日仏ギリシア・ローマ学会 WEB セミナー2020(第4回) を日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として開催、11月14日。 5) 日仏ギリシア・ローマ学会 WEB セミナー2020(第5回) を日仏ギリシア・ローマ学会事務局長として開催、12月19日。

吉田正明

② 1) 「キャバレー「黒猫」をめぐる」、『シャンソン・フランセーズ研究』第11号(シャンソン研究会発行)、pp. 61-80、1月 [単著] 2) 「キャバレーにおける民衆のイマージュ」、『シャンソン・フランセーズ研究』第12号(シャンソン研究会発行)、pp. 52-73、12月 [単著]

⑦ 1) シャンソン研究会代表 2) 長野日仏協会会長 3) 科学研究費補助金(基盤研究C)「19世紀後半パリにおける出版物とシャンソンとの影響関係」(課題番号17K02589) 研究代表者

伊藤 盡

① 「解説」J. R. R. トールキン著、クリストファー・トールキン編 沼田香穂里訳『ベレンとルーシエン』評論社、10月、pp. 346-49. [共著]

② 「漫画に描かれる北欧神話：視覚芸術との差違と共通性」『日本アイスランド学会会報』39(2020) 1-29. [単著]

⑦ 1) 「トールキンのファンタジー世界とエルフ語」(NHK 文化センター名古屋教室；2月9日) 2) 「J・R・R・トールキンの創造神話とキリスト教」(日本キリスト教団波田教会；8月30日) 3) 「J. R. R. トールキンのファンタジー世界～入門！エルフ語講座」(NHK 文化センター横浜ランドマーク教室(オンライン)；9月5日) 4) 「『ヴィンランド・サガ』と伝承の戦い：モルドンに於ける戦いとヒョルンガヴァーグルでの戦い」(NHK 文化センター京都教室(オンライン)；10月11日) 5) 「『ヴィンランド・サガ』と北欧神話の神々や妖精—オージン、テュール、ソールとロキ」(NHK 文化センター京都教室(オンライン)；11月8日) 6) 「『ヴィンランド・サガ』と“ここではないどこか”のファンタジー」(NHK 文化センター京都教室(オンライン)；12月13日)

杉野健太郎

② Sugino, Kentaro. "Pious Fitzgerald: *The Great Gatsby* and Modern Belief." *F. Scott Fitzgerald Review of Japan*, no. 3. 2020. pp. 7-27. [単著]

⑤ 1) 書評 杉野健太郎「映画と小説の関係の最前線をさぐる ノベライゼーション業界の人々の孤軍奮闘ぶりを歴史化・物語化 波戸岡景太著『映画ノベライゼーションの世界』小島遊書房」、『図書新聞』2020年4月4日付、第4面 [単独] 2) 記事「悼む 加藤幹郎さん」、『毎日新聞』2020年11月16日付朝刊、第5面 [単独]

⑥ ワークショップ「“Absolution”を読む」基調発表「“Absolution”と *The Great Gatsby*」、日本F. スコット・フィッツジェラルド協会全国大会、9月6日、オンライン [単独]

⑦ 日本映画学会会長／日本F. スコット・フィッツジェラルド協会会長／日本英文学会中部

支部理事／日本アメリカ文学会中部支部幹事／サウンディングス英語英米文学会評議員

趙 泰昊

② Thae-Ho JO, "Imagining the Racial-Religious Other: The Representation of Saracens in Middle English Romances" (Journal of Keio American Studies, Vol. 0), 131-38. [単著]

⑦ 1) 科学研究費補助金(若手研究)「中英語ロマンス文学における宗教の表象研究: Saracenの表象を中心に」(課題番号: 20K12960) 研究代表者 2) 司会: 2020年度第5回多文化交流サロン「William Wordsworth at 250: A Literary Anniversary in a Pandemic」11月24日、オンライン [単独] 3) 慶應義塾大学、明治大学非常勤講師

速水香織

① 『近世前期江戸出版文化史』(2月、文学通信、456P) [単著]

⑤ 「教職課程科目のさらなる充実を目指して——授業見学実践と報告」(『教職支援センターニューズレター』第17号、5月、信州大学教職支援センター、p. 4 [単独])

⑦ 1) くわな市民大学文化科講座「和歌を詠む人々」(桑名市パブリックセンター、全7回、5-12月) 2) NHK文化センター講座「『万葉集』を読む」(NHK文化センター、7-9月)

3) 2020年度第3回多文化交流サロン「新しい生活スタイルを考える——コロナ禍から学ぶこと Zum Thema Neuer Lebensstil: Was lernen wir aus der Coronakrise?」コメンテーター(7月31日、オンライン開催) 4) 日本文学協会委員(2016年~2020年) 5) 日本近世文学会編集委員(2019年~現在に至る) 6) 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究C・課題番号17K02447「信仰とメディアとの接点—近世前期における奉納文芸並びに神異譚の生成と変容との研究」研究代表者

山田健三

② 1) 「平安期神楽歌謡文献からみる「平仮名」の位置」(信州大学人文学部『信州大学人文科学論集』7-2、pp. 229-245、3月) [単著] 2) 「辞書生活史と言語史: 改編本系類聚名義抄異本比較から」(訓点語学会『訓点語と訓点資料』第144輯、pp. 20-41、3月) [単著]

3) 「仮名概念はいつ生まれたか: 「書記用語「万葉仮名」をめぐって」補説・再説」(長野県ことばの会『ことばの研究』12号、pp. 1-8、5月) [単著]

4) 「書評 大槻信著『平安時代辞書論考—辞書と材料—』」(東京大学国語国文学会『国語と国文学』97-7、pp. 74-79、7月) [単著]

⑦ 1) 「亀井孝」(『日本語学』39-1(「特集 日本語学を創った人々」) 明治書院、pp. 66-69、4月) [単著] 2) 科研費・基盤研究(C)(一般)「近代日本語史における「平仮名」を中心とする文字認識論的研究」(課題番号20K00643)(令和2~6年度)

渡邊匡一

④ 1) 「松高人名録(その二)」展(4月1日~、Web展示、旧制高等学校記念館) [制作・監修] 2) 「書物で緋く登山の歴史2」展(9月30日~、Web展示、信州大学附属図書館) [制作・監修] 3) 「書物で緋く登山の歴史1」展(11月9日~、Web展示、信州大学附属

図書館) [制作・監修]

⑥ “Composition of EFEO's old Japanese collection archived at Vietnam Academy of Social Sciences-Approaches to collect ancient documents”, October 14, Institute of Social Sciences Information (ISSI), Meeting Hall no. 606, Building B, No. 1 Lieu Giai Street, Ba Dinh Dist, Hanoi

⑦ 1) 仏教文学会委員 (平成22年4月～令和3年3月) 2) 説話文学会委員 (令和1年10月～令和4年9月) 3) 日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究C) 「真言宗寺院における中・近世期の学問展開に関する基礎的研究」 (課題領域番号: 17K02412) 研究代表者

